

(ア) 4

(イ) (犬や猫の殺処分数が減少し続けているのは、) 動物保護施設での引き取り数を減らすこと、返還・譲渡率を上げること (への取り組みの結果だと考えられます。)

## 解説

(ア) 1 十年間で約二十三万頭から約三万八千頭に減っているが、十分の一以下にはなっていない。

2 毎年三十万頭ずつ減っているわけではない。最も減少数が少ないのは、平成29年度から平成30年度で、約五千頭である。

3 猫の殺処分数が十万頭になったのは六年後の平成25年度。

(イ) 空欄には、犬や猫の殺処分数が減少し続けている要因となる取り組みの内容が入る。グラフ2についてのBさんの発言「十年間の返還・譲渡率に注目すると、右肩上がりに増えていることがわかります」、表についてのCさんの発言「(犬・猫の引き取り数の)はつきりした減少傾向を読み取ることができません」に着目し、動物保護施設に引き取られる数を減らす、返還・譲渡率を上げるという二つの取り組みをまとめると、